

# 下回りKeePer 防錆ワックス 作業マニュアル

雪がよく降る地域では、雪道に塩化カルシウム(塩)が撒かれ、下回りのサビにつながってしまいます。そうならないために、【下回りKeePer防錆ワックス】で予防します。

## 下回りKeePer防錆ワックスで使用するツール



下回りKeePer  
防錆ワックス

下回りの防錆保護剤  
容量：480ml

STEP.3で使用

金属ブラシ

STEP.1で使用

・新聞紙  
・養生テープ

STEP.2で使用

・新聞紙  
・ダンボール

STEP.3で使用

(推奨ツール)

・防塵マスク  
・保護メガネ  
・ゴム手袋  
・帽子

### STEP.1 下回りの状況の確認、清掃

- ① 自動車を専用リフトで上げる。
- ② 下回りの砂、ホコリなどを乾いたタオルで拭き取る。

参考:

- 泥汚れがひどい場合は、水で洗い流し、水気を完全に取ります。  
※水気が残っていると、防錆ワックスが定着しません。

注意:

- 塗装が剥がれて、錆が発生している箇所は「金属ブラシ」で擦り取ってください。



### STEP.2 マスキング

- ブレーキ周辺(ブレーキパッド、ブレーキキャリパー、ブレーキローター)にスプレーがかからないよう、新聞紙や養生テープでマスキングする。

参考:

- 写真のように、養生テープなどで下回りを1周囲うことで、ボディ部や周囲の飛散防止になります。



### STEP.3 「下回りKeePer防錆ワックス」作業

- ① 防錆ワックスをタテヨコに振り、逆さにして再度振る。
- ② 約20cm離して、金属および塗装部分に防錆ワックスを行う。

参考:

- 施工漏れがないように、防錆ワックスの噴霧する角度を変えながら作業してください。

注意:

- 1度にスプレーする時間は「2~3秒」を目安にしてください。  
長くスプレーすると吐出不良となる場合があります。



- ③ ①・②の作業を下回り全体に行う。

参考:

- 前方から後方へ順々に行うことで、効率よく、漏れなく施工できます。

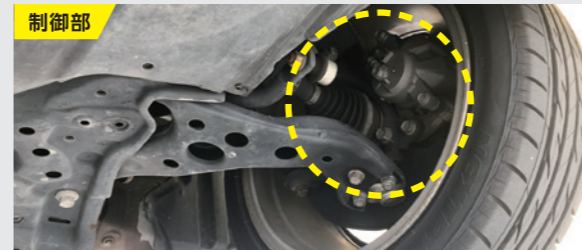


### 注意：施工不可な箇所

ブレーキパッド・ブレーキキャリパー・ブレーキローター

防錆ワックスにより滑る危険性

制御部



⚠ 「制御部」の付近を施工する場合

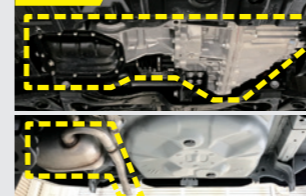
裏側からブレーキ(ブレーキパッド、ブレーキキャリパー、ブレーキローター)付近を新聞紙でマスキングし、スプレーがかからないようにします。



エンジン回り・  
オイルパン・マフラー

高温で防錆ワックスが溶ける

高温部



ホース類・ブーツ類の  
ゴム部

ゴム部の劣化を早める恐れ

ゴム部



フットセンサー

センサーの反応不良が起こる

センサー部



タイヤハウス内など  
ザラザラしている箇所

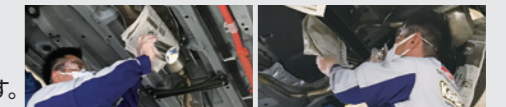
防錆ワックスが剥がれ落ちる

チッピング剤塗布部



⚠ 「高温部」・「ゴム部」・「センサー部」・「チッピング剤塗布部」の付近に施工する場合

新聞紙やダンボールを使い、施工不可な箇所にかからないようスプレーします。



⚠ 「施工不可な箇所」に防錆ワックスがついた場合

速やかにタオルなどで全て拭き取ってください。  
もし、防錆ワックスが乾いて拭き取れない場合は、「パーツクリーナー」を付けたタオルで拭き取ってください。



### STEP.4 最終確認

- 施工漏れがないかチェックをし、新聞紙・マスキングを剥がして完了。

乾燥時間

- 夏季は、施工から「30分乾燥後」に走行可能
- 冬季は、施工から「1時間乾燥後」に走行可能  
※気温が5℃以下の場合は、施工から「2時間乾燥後」に走行可能

参考:

- 施工後、「下回りKeePer防錆ワックス」が余った場合は、詰まり防止のため缶を逆さにして、スプレーしてください。